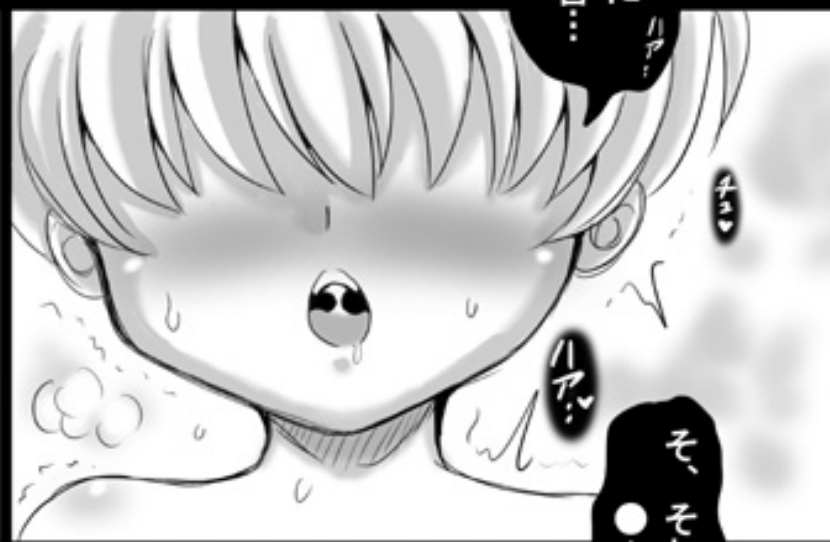


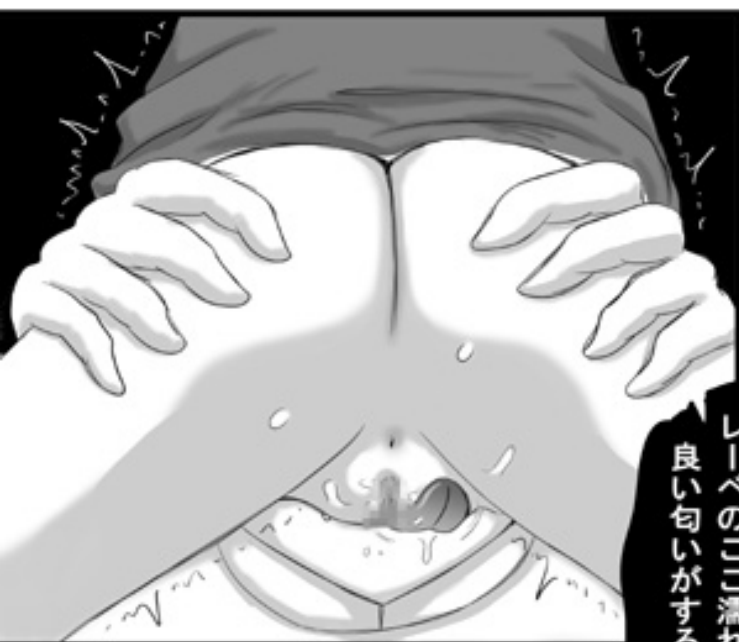
執務室

はあ……●●時に
え、演習……



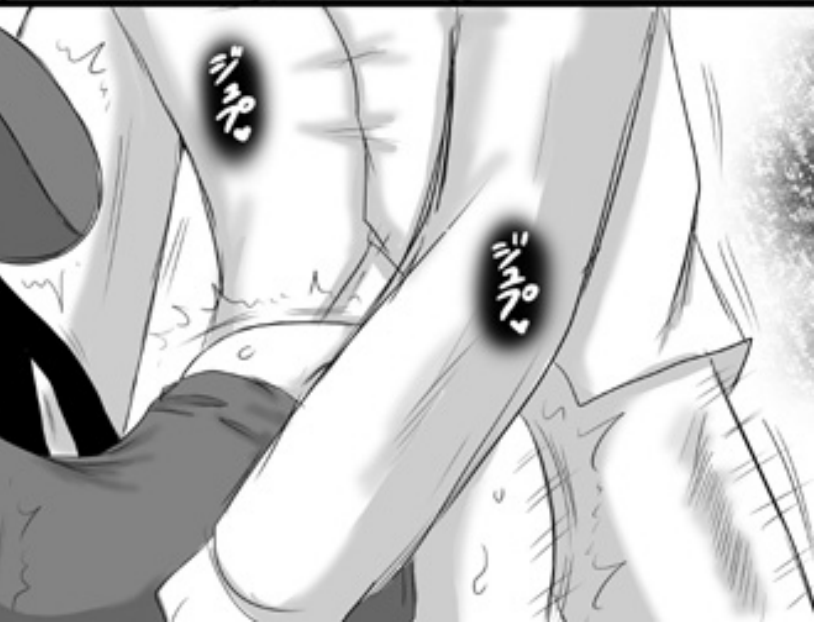
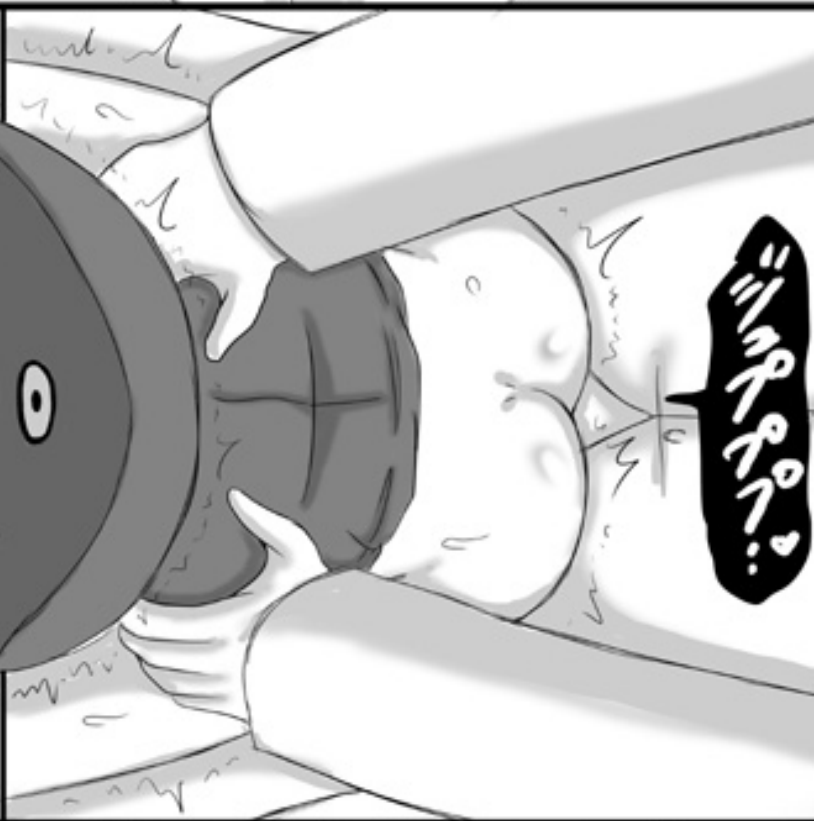
そ、それから
●▲時に……んう……





レーベのニ濡れやすいせ
良い匂いがあるな...

え、嘘...、こんな
時間からするの...?





んがあああ!!

イク間隔が段々短くなってきたな...



は♡あ♡
あああ...♡

でも私がイクまで
続けるぞ?





そしてすぐに硬さを取り戻していく提督のおちんちん...



膣内で出されながらキスされるの...癖になってるかも...



レーベ...また私のが硬くなったのわかったか?



提督は精子を出した後、いつも僕の身体中にキスをしていく...



それは秘書艦と一緒にいる為だ



それじゃどうして提督の執務室に檜風呂が備え付けてあるかは分かるか?





もちろん…
「」…も…



ビュッ!
ビュッ!



ヌグッ

ヌルッ

ヌリッ

それから僕は提督とお互いの
身体中を念入りに洗って…



んハッ
すす

…オッ

提督の精液…温かくて…
匂いでくらくらしちゃう…



頻繁に秘書艦に任命しては
側に置いて親交を深めていった。



レーベと初めて出会った時、
正直私は一目惚れした。



だがある時、私はレーベの
思いがけない一面を
見てしまった。



見た目だけでなく、素直で健気な
内面も私には大変好ましく思えた。



綺麗だ…

ああダメ♡
こ、これは…
違うんだ…



やあんっ♡



レーベ…

あ…
て、提督…

レーベのそんな姿を見た
私は興奮して我を失った



ああん♡

カッパカッパ

そして半ば無理やりレーベを求めた…



恥ずかしながら
その最中に思いの
丈をぶちまけた…



初めのレーベに対して
2回、3回と膣内射精し…



レーベもまた嫌な顔一つせず
求めに応じてくれた

オチン



その日から秘書艦として執務室に
呼び出してはレーベを連日求め…





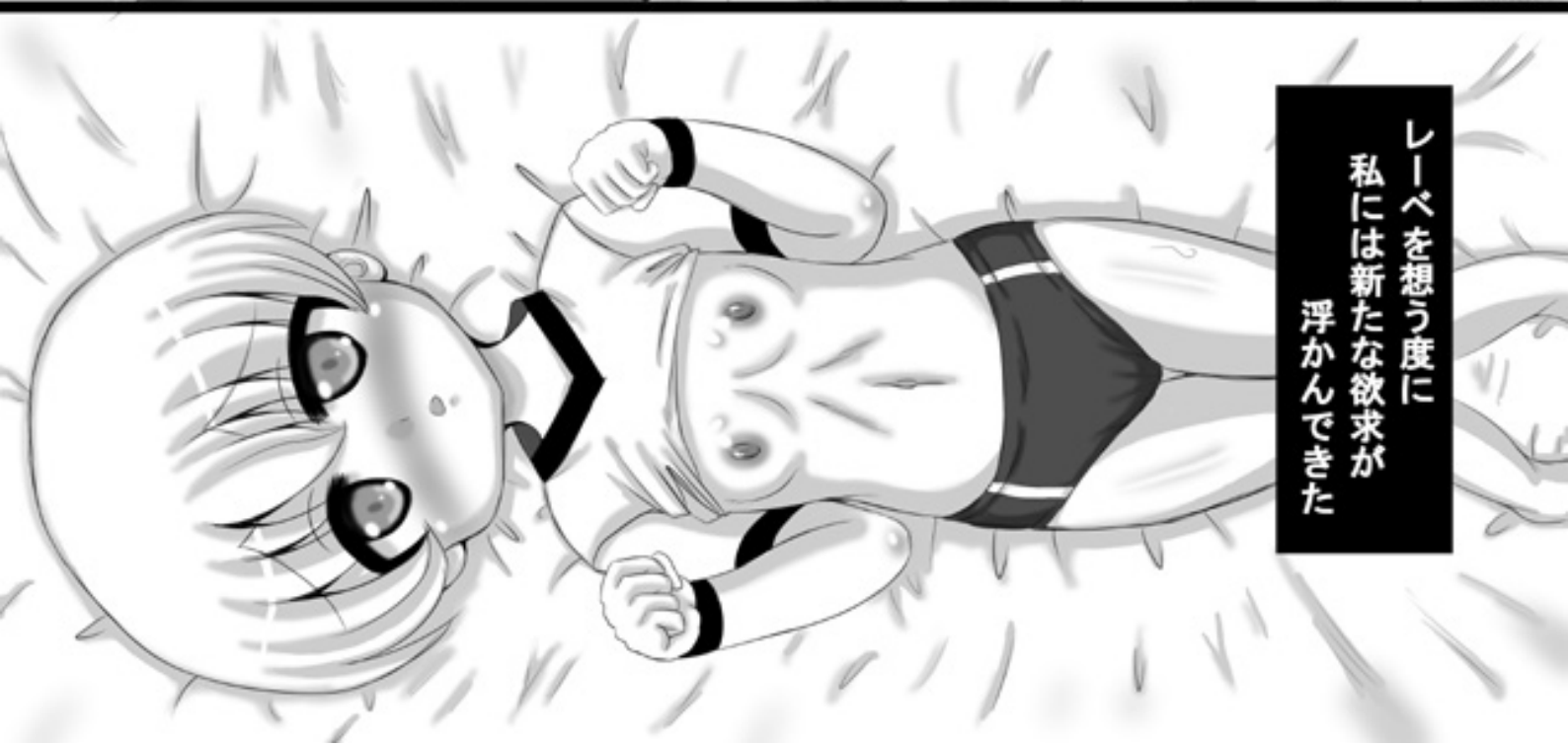
は♡あ♡腔内♡
またイッちゃう♡



私はレーベに様々な
欲求をぶつけた



ブルブル!



レーベを思う度に
私には新たな欲求が
浮かんできた



や♡あ♡♡

あ♡♡♡♡♡



ほ♡♡♡♡♡
あ♡♡♡♡♡
あ♡♡♡♡♡

あ♡♡♡♡♡

「この娘をもっと弄りたい…
腔内に射精したい…
喘ぎ声を聞きたい…」



ひゃああ…♡♡

♡♡♡♡♡



あ♡は♡♡
提督の…
熱い…♡♡

この格好でも
2回、3回と
レーベに
射精した…

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

やがてレーベの方からも様々な欲求を提案してきた

これ…提督の匂いがする…

おっ！

ひあんっ…

♪OK!

は♡あ♡提督♡
突くの♡
はげし♡

おっ！

ちんちん…

♪OK!

おっ！

パッ!



しかも自分から...



うわぁ
うわぁ

んむん
ん♡ちゅ♡...



んぽん
んぽん



い...一回だけだよ...

やがてはこんな衣装まで用意してくれた...

もじ...



ふぁ♡あ♡
してえ♡も♡と♡
提督う♡

んぽん
んぽん

バチッ!
バチッ!



提督…
僕嬉しいよ…



じゃあ…受け
取ってくれるね？

…う、うん

僕で良ければ…



あ、そこは
ダメ…



そして現在——

おん♡
おん♡
おん♡
あぁ♡



あはあ♡またイクぅぅぅ♡

へあ♡は♡はあ♡

ん♡むう♡
んん…♡

チクッ!

もっとしてえ…♡

もっ…提督♡

しかし…あのレーベが
淫乱になったもんだ

まだこんな服
もあつたんだ…

ち、違…

ヌクッ
ヌクッ
ヌクッ

チクッ!



はあ♡そり♡
弱いトコ♡
ぱっかり突いちゃ

ズブ

ズブ

ズブ



ズブ

うん♡うん♡

あはあ♡

ほらもっと
イキたい?

ズブ



ズブ!

ズブ!

ズブ

あ♡は♡ら♡ら♡ら♡ら♡...



あはあ♡ほら♡

ダメえまたイクからあ♡



ズブ



今まで触った所って…
ほ、ほとんど
全部だよ…?



は♡
あ♡

チユク

それからまた
そのまま…



ダメ♡

こんな朝♡

早くから♡

ダメだよお♡

は♡

ブルッ…

てえとく♡…♡

てえとく…僕を…
「」から…

提督から…
離れなくさせてえ…



僕を…あう…♡
提督専用にしてえ…あ♡



ヌル♡

ヌル♡

シユク♡

